発掘調査道具論

山崎　健

Ⅰ　はじめに

完掘した土坑壁面は、地域によって異なっている。イショクの先で壁をはがすように掘る地域は土坑の壁面に凹凸が残り、ガリで仕上げる地域は土坑の壁面が滑らかである。

考古学シリーズの『発掘と整理の知識』には、「発掘に用いる道具は本来農作業用で、九州や関西、関東といった土質の違うそれぞれの地域で考案され、改良されているために違いがみられるのです」と書かれている（服部1985）。本稿では、こうした発掘調査道具に関する地域性を具体的に明らかにし、その背景も検討してみたい。

Ⅱ　発掘調査道具の歴史

まず、現在にいたる発掘調査道具の歴史を確認しておく。日本の考古学や発掘調査の概説書に記述された発掘調査道具を検討した結果、時期的な変化が認められた（表１）。

道具の変化　シャベル・スコップなどの大型掘り具、移植ゴテなどの小型掘り具、クワやツルハシは、『通論考古学』（濱田1922）や『日本考古学』（後藤1927）といった1920年代の概説書から現在にいたるまで変わらずに使われていた[1]。鎌も古くから調査道具として登場するが、1960年代までは主に除草や根切りとして使われており、土を削る道具としては1980年代からみられるようになった。ジョレンは『考古学の基本技術』（近藤ほか1958）から登場した。

運搬用具は、1960年代頃を境として「もっこ」から「一輪車」へ変化していた。1966年刊行の『埋蔵文化財発掘調査の手びき』には、「最近では、トロッコはほとんど使用されず、それにかわってベルトコンベヤーを使用する場合が多い」と記されている（文化庁1966）。

名称の変化　小型掘り具の名称は、ほとんどの概説書で「移植ゴテ（移植ごて）」であったが、1920年代の概説書では「左官用鏝類」と表記されていた。移植ゴテは、明治時代にシャベルやホーなどと一緒に輸入された西洋式の園芸道具である。左官鏝職人が植物の移植用に製作した（柴田2010）、あるいは植物用の左官ゴテとして製作販売した（園芸文化協会2020）ことから、移植ゴテと呼ばれるようになったという。

また、大型掘り具の名称も時期的に変化していた。1980年代まで多くの概説書は「シャ

表１　概説書にみる発掘調査道具の時期的変化

スコップ（大型）	移植ゴテ（小型）	クワ	ジョレン	草削り	一輪車	引用文献
ショベル	左官用鏝類	鶴嘴、鍬		鎌		『通論考古学』（濱田1922）
ショベル	左官用鏝類	鶴嘴、鍬、手鍬		鎌		『日本考古学』（後藤1927）
ショベル、スコップ	小形ショベル	鍬、万鍬				『図解先史考古学入門』（甲野1947）
シヤベル、スコップ	移植ごて	鍬				『考古学の研究法』（斎藤1950）
工兵用円匙、大円匙（シャベル）	移植ごて	鍬、唐鍬（とんが）、鶴嘴、万能（鋤、三ッ歯、四ッ歯）		草刈鎌	もっこ	『先史発掘入門』（酒詰1951）
シャベル	移植ごて、根掘り	鍬（平鍬、開墾鍬）、つるはし	じょれん	鎌	もっこ	『考古学の基本技術』（近藤ほか1958）
小円匙、シャベル	移植ごて	鍬、つるはし			もっこ、トロッコ	『考古学の調査法』（藤田ほか1958）
シャベル	移植ごて	つるはし、唐ぐわ、平ぐわ、又ぐわ、手唐ぐわ	じょれん	かま	もっこ、一輪車	『埋蔵文化財発掘調査のてびき』（文化庁1966）
シャベル	移植ゴテ	クワ、ツルハシ	ジョレン	カマ、手がきの小ジョレン		『発掘と整理の知識』（服部1985）
シャベル	移植ゴテ	ツルハシ	ジョレン	カマ	一輪車、台車、リヤカー	『考古学入門』（鈴木1988）
スコップ（平たい・丸い）	移植ゴテ	鍬（三日月状、万能、小型）、手バチ、つるはし		半月状の小型の鍬	一輪車	『考古学で何がわかるか』（中村1997）
スコップ（円匙・剣スコ・シャベル）、角スコップ（角スコ）	移植ゴテ（いしょく）	鶴嘴（つる）	鋤簾	鎌、ねじり鎌（ひねり・ねじり・手ガリ）		『ほるダス』（岡崎ほか1998）
スコップ（シャベル）、大スコ・角スコ・円匙など各種	移植ベラ（移植ゴテ・手スコ）	大バチ、手バチ、ツルハシ	ジョレン	ガリ（手ガリ・キツネガリ・振り鎌など各種）、鎌（草刈鎌・奈鉈鎌など各種）	一輪車	『初めての発掘調査』（相原2010）
スコップ	移植ゴテ	鍬、ツルハシ（鶴嘴）	ジョレン（鋤簾）	草削り	一輪車	『発掘調査のてびき』（文化庁・奈文研編2010）

※発掘調査道具の分類は表３の基準に従っている

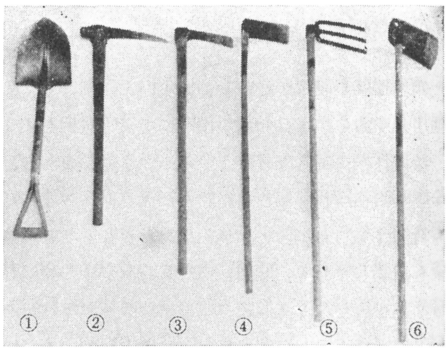

図25　発掘用具(1)　1シャベル　2つるはし　3唐ぐわ　4平ぐわ　5又ぐわ　6じょれん

『埋蔵文化財発掘調査のてびき』
（文化庁1966）

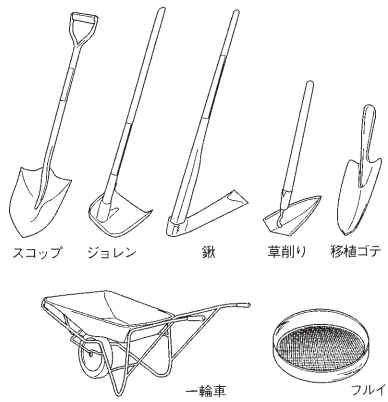

図51　掘削などにかかわる用具

『発掘調査のてびき－集落遺跡発掘編－』
（文化庁・奈文研編2010）

図１　『発掘調査のてびき』にみる大型掘り具の名称

ベル（ショベル）」と表記していたが、1990年代以降は「スコップ」に代わっていた。例えば『発掘調査のてびき』で比較すると、刃先の尖った大型の掘り具に対して、1966年刊行本は「シャベル」であるが、2010年刊行本は「スコップ」というキャプションが付いている（図１）。

Ⅲ　発掘調査道具のアンケート調査

考古学の概説書では発掘調査道具が全国一律に説明され、具体的な地域性は記述されていなかった。そこで、アンケート調査を実施して発掘調査道具の地域性を検討した。

1　調査方法

奈良文化財研究所では、地方公共団体等の文化財担当職員の資質向上を目的とする様々な研修をおこなっている。この文化財担当者研修を受講した参加者に対して、発掘調査道具に関するアンケート調査を実施した。調査期間は2009～2021年度の13年間である。また、高田祐一氏のご協力により、『平成30年度報告書データベース作成に関する説明会』でもアンケート用紙を配布した。

その結果、1,718枚のアンケートを回収することができた。そのうち、無効回答（発掘調査経験なし等）や重複回答（同一人物による回答）[2]を除いた有効回答者数は、1,479名であった。これは、全国の埋蔵文化財専門職員の約26％に該当する[3]。

アンケートは、無記名の自由記載形式（複数回答可）で実施した。調査項目は、「土（包含層）を掘る道具（呼び名）」、「土を削る（清掃する）道具（呼び名）」、「土坑を掘る道具（呼び名）」、「壁を削る道具（呼び名）」、「土を集める・運ぶ道具（呼び名）」、「廃土[4]の山（呼び名）」である。項目ごとに使用する道具と呼び名も記載してもらい、必要な場合は図による補足説明をお願いした。

2　回 答 者

回答者1,479名の都道府県別の内訳は、表２の通りである。都道府県ごとに分析するためには数が少ないため、北海道・東北（N＝226）、関東（N＝224）、中部（N＝253）、近畿（N＝305）、中国・四国（N＝219）、九州・沖縄（N＝252）の６地域の区分で主に検討していく。

表２　アンケート調査の回答者数

北海道・東北（N＝226）							関東（N＝224）							中部（N＝253）								
北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県
37	42	51	22	17	16	41	24	13	35	39	38	35	40	29	16	42	21	14	47	23	29	32

近畿（N＝305）							中国・四国（N＝219）									九州・沖縄（N＝252）							
三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
18	32	36	77	53	62	27	42	38	26	31	23	6	13	24	16	55	15	23	49	25	24	22	39

3　分類名の設定

アンケートで回答された発掘調査道具は、様々な基準で分類された名称がつけられていた。例えば、スコップやシャベルだけでなく、カクスコ、ケンスコ、マルスコ、アナスコのような形態に基づく分類名やダイスコ、オオスコ、デカスコ、テスコのような大きさによる分類名が含まれていた。他の道具では、タケベラやテツベラ、タケミやプラミなど材質による分類名もみられた。

様々な基準の分類名が混在したままでは、発掘調査道具を地域ごとに比較することが困難である。そこで、共通する機能をもつ道具の分類名を設定し、回答にあった多様な道具名を分類した上で、比較検討を進めることとした。発掘調査道具の分類名は、『発掘調査のてびき―集落遺跡発掘編―』（文化庁・奈文研編2010）を参考として設定した（表３）。分類にあたっては、アンケートの回答用紙に描かれた道具の図も参照した（図２）。

4　使用する発掘調査道具

回答された発掘調査道具を分類し、北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の６地域ごとに集計して比較した。

土（包含層）を掘る道具（図３）　どの地域でもスコップ、移植ゴテ、クワが90％以上を占めていた。ただし、クワの比率は東西で地域差が認められた。近畿、中国・四国、九州・沖縄が約15～20％であるのに対して、北海道・東北や関東は５％未満であった。

土を削る（清掃する）道具（図４）　東西で地域差が認められた。中部以西では草削りの比率が高く、とくに近畿や中国・四国は70％以上を占めていた。それに対して、北海道・東北や関東ではジョレンや移植ゴテの比率が高かった。

土坑を掘る道具（図５）　どの地域でもオタマと移植ゴテが約70％以上を占めていた。土（包含層）を掘る道具と同様に、クワの比率には東西差があり、近畿、中国・四国、九州・沖縄は約４～６％に対し、北海道・東北、関東、中部では0.5％未満であった。また、草

表３　発掘調査道具の分類

分類名	機能	含まれる道具
スコップ	土を掘り、すくう道具（大型）	カクスコ、ケンスコ、ケンサキ、エンピ、マルスコ、ダイスコ、ホソなど
移植ゴテ	土を掘り、すくう道具（小型）	イショク、イショクゴテ、イショクベラ、コテ、テスコ、マガリなど
スコップ・移植ゴテ	土を掘り、すくう道具（大きさ不明）	スコップ、スコ、シャベル、ショベル
クワ	土を崩す道具	クワ、テグワ、トウグワ、バチ、テバチ、ツルハシなど
ジョレン	土を削り、よせる道具	ジョレン、カキイタ、ハゲチなど
草削り	土を削る道具	ガリ、テガリ、オオガリ、ネジリガマ、マガリガマ、リョウバガマ クサケズリ、カマ、サンカクホー、キツネ、ハンゲツ、カッツァなど
カベキリ	断面を削る道具	カベキリ、タテジョレン、ヘラ、スクレーパーなど
オタマ	土をすくう道具	オタマ、スプーン、ヒシャクなど

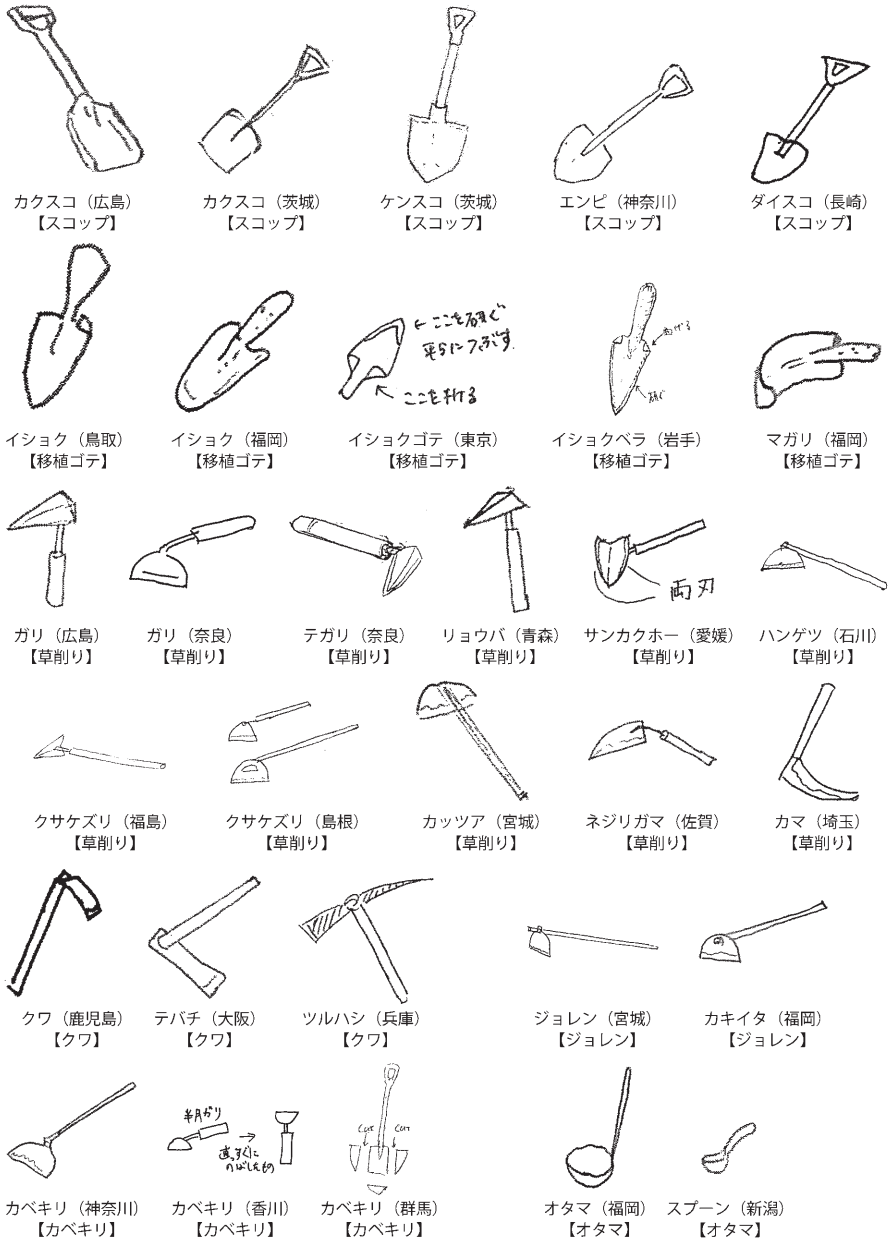

図2　アンケート用紙に描かれた発掘調査道具

削りは近畿で他の地域よりもよく使われていた（9.97%）。

壁を削る道具（図6）　どの地域でも草削りが約70%以上を占めていた。また、カベキリは関東で他の地域よりもよく使われていた（13.6%）。

土を集める・運ぶ道具（図7）　地域性はみられず、どの地域でもミ・ジョレン・一輪車が90%以上を占めていた。

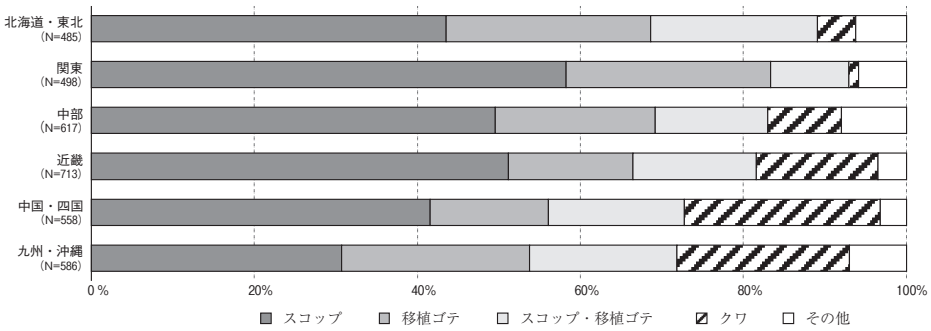

図 3　土（包含層）を掘る道具

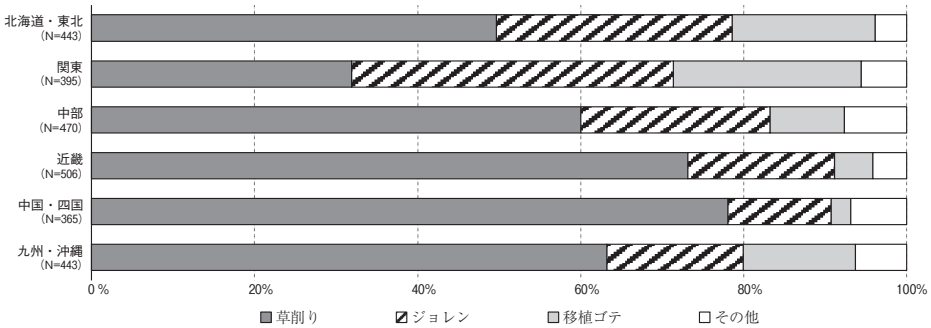

図 4　土を削る（清掃する）道具

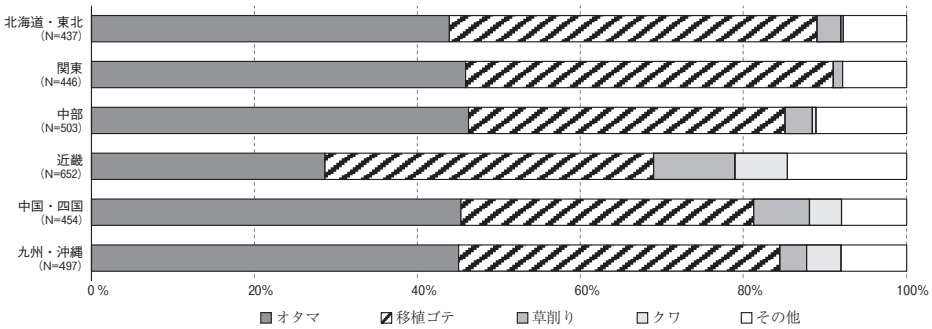

図 5　土坑を掘る道具

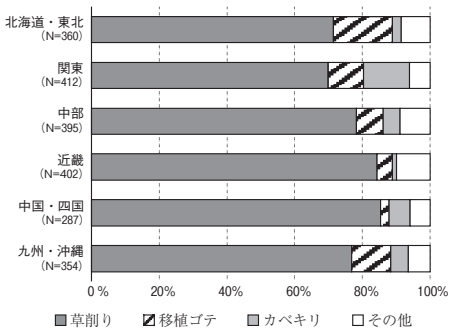

図 6　壁を削る道具

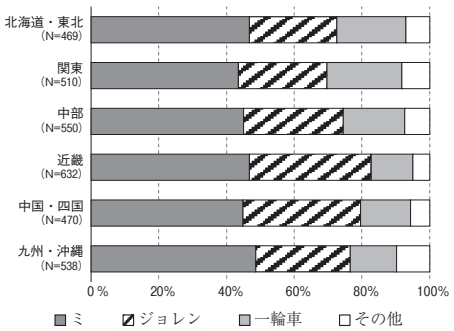

図 7　土を集める・運ぶ道具

5　発掘調査道具などの呼称

分類した発掘調査道具および排土の山の呼称について、北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の６地域ごとに集計して比較した。

スコップ（大型掘り具）（図８）　どの地域もカクスコが30％以上を占めていたが、刃先の尖った掘り具の比率は東西で地域差が認められた。ケンスコが中部以西では25％以上に対し、北海道・東北や関東は15％未満であった。その代わりに、北海道・東北や関東ではエンピが約30％以上を占めていた。

移植ゴテ（小型掘り具）（図９）　北海道・東北、関東、中部、九州・沖縄ではイショクとイショクゴテが60％以上に対し、近畿や中国・四国ではテスコが50％以上で、とくに近畿

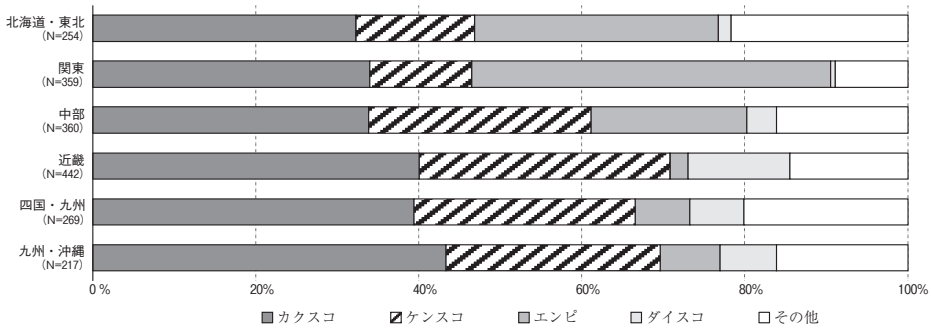

図８　スコップ（大型掘り具）の呼称

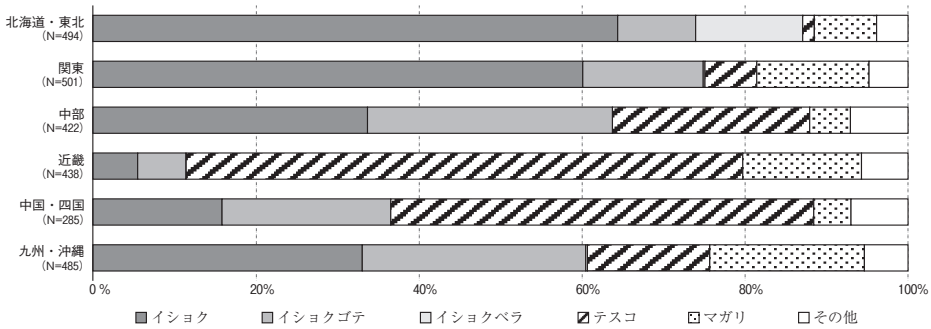

図９　移植ゴテ（小型掘り具）の呼称

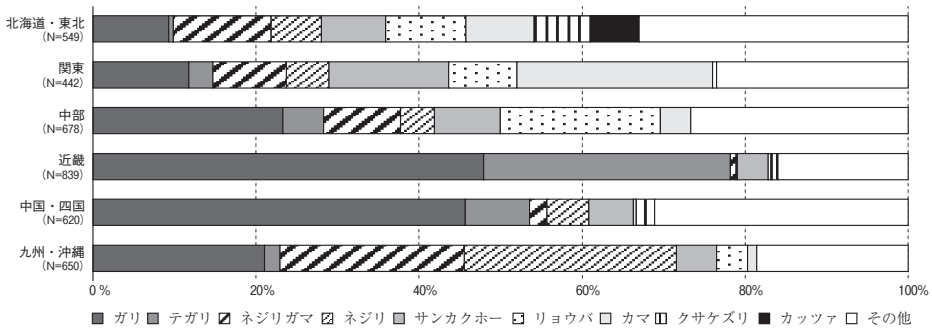

図10　草削りの呼称

では68.3％を占めていた。また、イショクベラが北海道・東北で多く認められた。移植ゴテの先端を折り曲げたマガリは全国で一定数みられた。

草削り（図10）　地域差が非常に大きかった。西日本ではガリやテガリの比率が高いが、九州・沖縄ではネジリやネジリガマも多かった。中部以東は多様性が高く、中部ではガリやリョウバ、関東ではカマが比較的多い。北海道・東北はカッツアという特有の呼称がみられた。

ジョレン（図11）　九州・沖縄を除いて、ジョレンが90％以上を占める。九州・沖縄もジョレンが主体であるが、カキイタも26％であった。また、中国・四国ではハグチが5.8％を占めていた。

ミ（図12）　東西で大きく地域差が認められた。北海道・東北、関東、中部ではミが70％以上を占めるのに対して、近畿、中国・四国、九州・沖縄ではテミが50％以上を占め、とくに近畿では90％であった。また、九州・沖縄ではショウケが18.8％を占めた。

一輪車（図13）　北海道・東北、関東、中国・四国ではネコ・ネコグルマが多く、とくに北海道・東北と関東はあわせて80％以上を占めた。近畿や九州・沖縄ではイチリン・イチリンシャが多かった。

排土の山（図14）　中部以西ではハイド・ハイドヤマがあわせて65％以上を占めているが、北海道・東北と関東ではネコヤマも多くみられた。

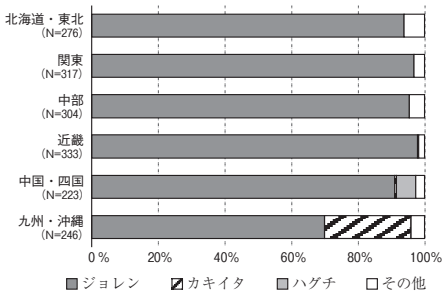

図11　ジョレンの呼称

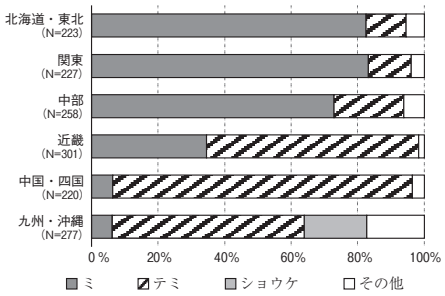

図12　ミの呼称

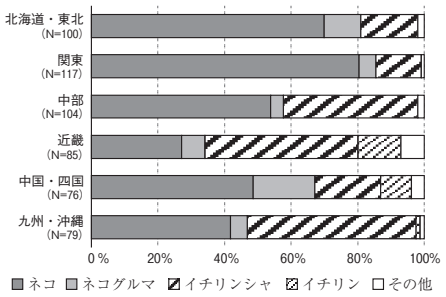

図13　一輪車の呼称

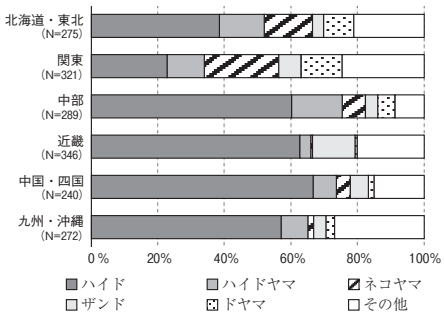

図14　排土の山の呼称

Ⅳ　考　　察

1　発掘調査道具の地域性

道具の地域性　　アンケート結果から発掘調査道具の組成を比較した結果、「壁を削る道具」や「土を集める・運ぶ道具」には大きな違いがみられなかったが、「土（包含層）を掘る道具」や「土を削る（清掃する）道具」、「土坑を掘る道具」には地域性が認められた。「土（包含層）を掘る道具」や「土坑を掘る道具」はクワの比率に東西差が認められ、「土を削る（清掃する）道具」は東日本ではジョレンや移植ゴテの比率が高く、西日本では草削りの比率が高かった。

こうした発掘調査道具にみられた地域性の要因を検討するために、農業環境技術研究所が日本全域の土壌を分類した「包括的土壌分類第１次試案」に基づいて、日本列島における土壌分布を概観する。この分類に基づく各地域の分布面積をみると（小原ほか2016）、大きな地域差が認められた土壌は黒ボク土（黒ボク土大群）と赤黄色土（赤黄色土大群）であった（図15）。黒ボク土は、主として母材が火山灰に由来し、リン酸吸収係数が高く、容積重が小さく、軽しょうな土壌である（小原ほか2011）。北海道、東北、関東、九州を中心として、主要な火山の東側の台地や丘陵に広く分布する（図16）。赤黄色土は、有機物の蓄積が少なく、塩基飽和度が低く、風化の進んだ赤色または黄色の土壌である（小原ほか2011）。西南日本の丘陵地や台地に分布し、粘土含量が高く、緻密なために水はけが極めて悪く、乾燥すると硬くなる。

このように、台地や丘陵に分布する土壌には大きく東西差があり、主に東日本で軽くてやわらかい黒ボク土が分布する。概説書に必ず登場するような基本的な調査道具のクワは、東西で大きな地域差が認められ、西日本は土を掘る道具としてクワをよく用いるのに対して、東日本はあまり用いられていなかった（図17）。土坑を掘る道具でも、東日本でテグワやテバチを含むクワを用いるという回答は非常に少なかった。クワは土を掘り起こす農

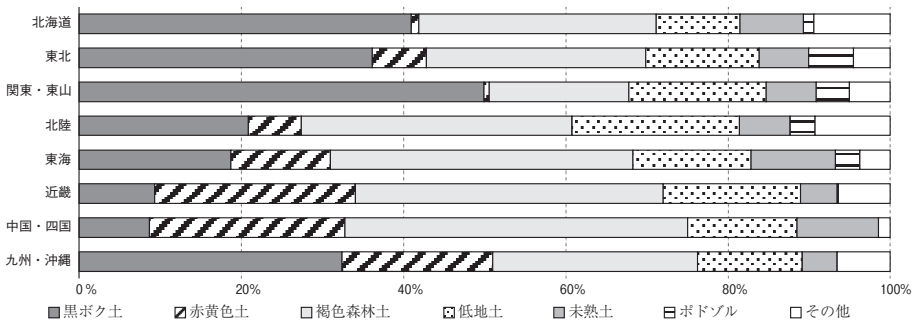

図15　日本列島における土壌分布面積の組成（小原ほか2016より作成）

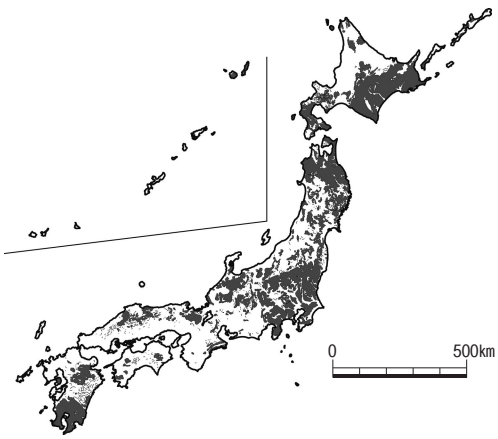

図16　黒ボク土の分布（小原ほか2016より作成）

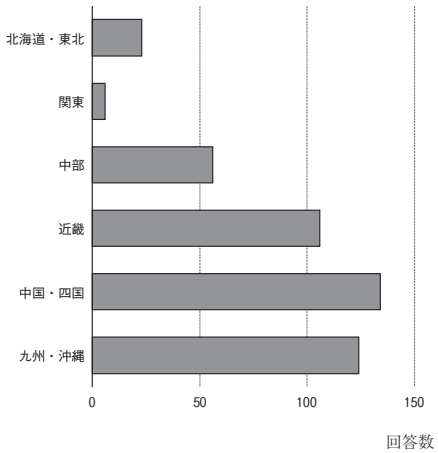

図17　クワの回答数（土を掘る道具）

具であり、発掘調査では硬い土壌を崩すために使われることから、クワ利用の地域差は土壌環境の違いが影響している可能性がある。同様な視点でみれば、「土を削る（清掃する）道具」が東日本でジョレンや移植、西日本で草削りが多いというアンケート結果も、堆積土壌の相対的な硬さの違いを反映しているのかもしれない。

以上から、私たちが使う発掘調査道具は、地域の土壌環境が反映されている可能性が高い。ただし、北海道北部や東北地方の日本海側、九州南部のように土壌環境と一致しない地域もあり、すべてを環境要因で説明できる訳ではなかった。

道具の伝播や変化　アンケート回答には、発掘調査道具の伝播や変化をうかがえる記述も認められた[5]。石川県では、それまで片刃のマガリガマを使用していたが、大阪から来た調査員が両刃の三角ホーを普及させたという話が複数の回答用紙に記されていた。発掘調査を民間の調査組織に業務委託してから、土坑を掘る際にマガリが使われるようになったという回答もみられた。また、大阪府や兵庫県では、分層に使っていた鉄ベラが銃刀法に抵触して使用できなくなったという。

2　発掘調査道具名の地域性

シャベルとスコップ　考古学の概説書では、1990年代を境として大型掘り具の名称が「シャベル（ショベル）」から「スコップ」へ変化していた。「シャベル」と「スコップ」の語源や語史を検討した染谷裕子は、昭和40年代半ばまで大型の掘り具をシャベルと呼ぶことが一般的であったが、それ以降は「スコップ」と呼ぶことも多くなり、現在に至ることを明らかにした。そして、シャベルは「主に穴を掘るのに使用する足踏みのついたもの」で、スコップは「主に石炭などをすくうための足踏みのないなで肩のもの」であったが、機関

車用スコップのような石炭を大量にすくう道具が時代の変化で見られなくなり、モノとしては無くなって言葉として残ったために、昭和40年代以降にシャベルとスコップの混用が激しくなったと指摘する（染谷1995・1996）。

実際にアンケート結果ではシャベルとスコップが混用されており、例えば、カクスコを説明する際に、スコップと書いた回答とシャベルと書いた回答の両者がみられた。そこで、シャベルとスコップという呼称の地域性を検討するために、カクスコやケンスコ、エンピなど大型掘り具（分類名：スコップ）と移植ゴテやテスコ、マガリなど小型掘り具（分類名：移植ゴテ）に対して、スコップと書いた回答とシャベル（ショベル）と書いた回答を集計した。

その結果、大型掘り具と小型掘り具は、地域ごとに対称的な様相を示した（図18）。大型掘り具では、北海道・東北、関東、九州・沖縄はスコップの呼称が約70～80％と優勢で、近畿や中国・四国はスコップとシャベルの割合が均衡していた。小型掘り具では、北海道・東北、関東、中部はシャベルの呼称が約70～80％と優勢で、近畿と中国・四国はスコップが約60％とやや多く、九州・沖縄はスコップとシャベルの割合が均衡していた。

『大辞泉』には、東日本では大型のものをスコップ、小型のものをシャベルといい、逆に西日本では大型のものをシャベル、小型のものをスコップということが多いとある[6]。『日本国語大辞典』の編集に携わった神永曉は、学生時代に参加した発掘調査で、表土をはぎ取るのが「スコップ」、土器などの遺物が出土したときに周りの土壌を丁寧に取り除く小型のこて状のものが「シャベル」であるため、「スコップ」の方が「シャベル」よりも大きいと思っていたという。しかし、その分類は『大辞泉』の東日本型であったと述べている（神永2015）。

考古学の概説書に登場する大型掘り具の呼称は、シャベルからスコップへ変わっていたが、これは社会全体の変化を反映したものであった。スコップとシャベルの分類は東日本型（スコップの大きさ＞シャベルの大きさ）と西日本型（シャベルの大きさ＞スコップの大きさ）があり、東西で対立することが指摘されてきたが、今回のアンケート調査によれば、

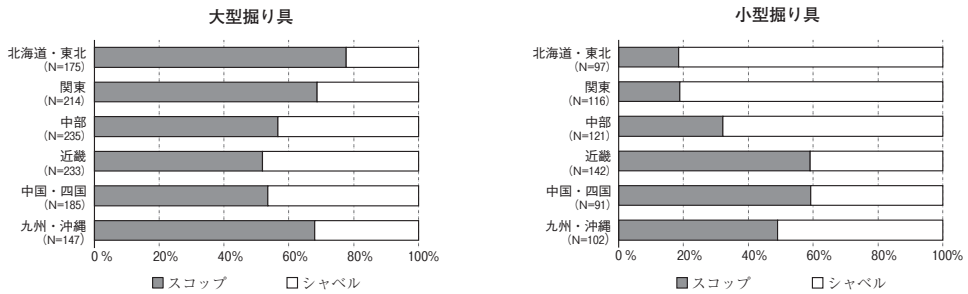

図18　スコップとシャベルの呼称

西日本においても東日本型と西日本型が均衡しており、全国的に東日本型の分類が優勢となっていた。

エンピ　「円匙（えんし）」の誤読で、旧軍隊で使用された言葉である（松村編2006、松村監修2012、新村編2018）。戦後の1950年代に刊行された概説書から登場する。『先史発掘入門』には「昔工兵の使った円匙は携帯には便利であるが、仕事の能率があがらない。普通の大きなものを袋に入れて持ち歩くのはなかなかよい」とあり、工兵用円匙と大円匙（シャベル）の図が描かれている（酒詰1951）。『考古学の調査法』では発掘用具の必携品に小円匙があげられ、「小円匙は旧軍隊用のものが最適、柄がぬけるのでリュックの中にも入る。また更に一廻り小さいものを作らせてもよい。米軍が使用している円匙、鍬両用のものも便利である」と記されている（藤田ほか1958）。

アンケート結果では、エンピという呼称は東日本で多く、西日本で少なかった（図８）。考古学の業界用語として有名な「エンピ投げ」は、必ずしも全国的な用語ではないのかもしれない。

ネコとネコヤマ　掘削で生じた排土は、一輪車で運ばれて集められる。一輪車をネコやネコグルマと呼ぶことの多い北海道・東北では、排土の山をネコヤマと呼ぶことが多かった。各地域のアンケート回答数の増減は非常に近似しており（図19）、道具の呼称が場の呼称にも影響を与えている事例として興味深い。

調査道具名にみられる方言　発掘調査道具の呼称には、特定の地域で使用される方言がみられた。北海道・東北における草削りの呼称でみられたカッツアは、県別にみると宮城県に集中していた（表６）。半月状の草削りで（図２の４段目中央）、宮城県では大カッツア、中カッツア、小カッツアがあり、中カッツアや小カッツアは首が折れにくいように鍛冶屋で特注したという。他に、北海道でカッチャキ、岩手県でカッチャやカッチャマと呼ぶ回答がみられた。「かっちゃく」や「かっつあく」は、主に北海道～東北地方でかき裂く、ひっかくの方言である（尚学図書編1989、平山ほか編1993・1994）。他にも、栃木県や茨城県における大型掘り具の呼称では、東北～北関東に分布するシャベルの方言（真田1981）とされるサブローやサブロウという回答がみられた。

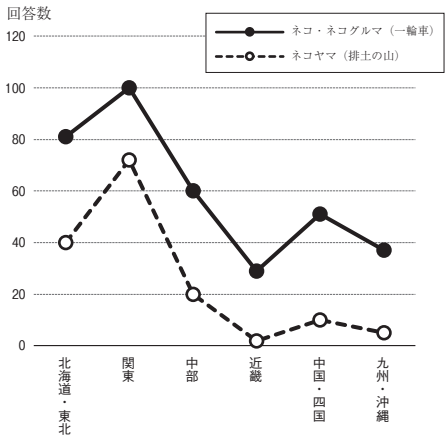

図19　ネコ・ネコグルマ（一輪車）とネコヤマ（排土の山）

中国・四国におけるジョレンの呼称でみられたハグチは、香川県と愛媛県に集中し

ていた（表７）。犂や鍬など全部金属製の道具をさす香川県の方言とされる（尚学図書編1989）。九州におけるミの呼称でみられたショウケは、『日本方言大辞典』によると、「しょーけ（小笥）」がザルやカゴ、「そーけ（笊笥）」が竹製のザルとある（尚学図書編1989）。

また、近畿では小型の調査道具に対して、テスコ、テガリ、テグワ、テミといった接頭辞の「テ」をつけて呼ぶことが多い傾向が認められた。

Ⅴ　ま と め

全国の文化財担当者1,479名から発掘調査道具に関するアンケート調査を実施して、これまで一律に説明されてきた発掘調査道具の地域性を可視化することができた。

21世紀になり、考古学の概説書で発掘調査道具が詳細に記述されることは少なくなった。教育委員会や埋蔵文化財センター、大学、発掘調査会社といった組織で調査道具が整備されたことにより、個人で調査道具を揃える必要が無くなったことが要因と想定される。しかし、近年でも発掘調査道具やその呼称は変化していることが明らかになったため、現段階での記録を残すことは非常に重要と考える。そこで、アンケートで得られた調査結果をもとに、21世紀初頭段階における発掘調査道具の記録を残しておきたい。

１　21世紀初頭における発掘調査道具の記録

発掘調査道具は、「土を掘る道具」、「土を削る道具」、「土をすくう道具」、「土を集める道具」、「土を運ぶ道具」などに大別される。農具や園芸道具、調理道具など身近にある既製品を転用し、目的に応じて加工して使用することが多い。

土を掘る道具にはスコップや移植ゴテ、クワなどがある。スコップは、刃先の形態によってカクスコやケンスコなどと呼び分けられるが、北海道・東北や関東では刃先の尖ったスコップをエンピと呼ぶことも多い。こうした大型の掘り具は、1980年代まで主にシャベルと呼ばれ、1990年代以降はスコップと呼ばれることが一般的に多くなるが、東西で地域差がある。東日本ではスコップと呼ぶ人が多いのに対して、西日本ではシャベルと呼ぶ人も半数程度みられる。小型の掘り具である移植ゴテは、近畿と中国・四国ではテスコと呼ばれ、その他の地域ではイショクやイショクゴテと呼ぶことが多い。東北ではイショクベラと呼ばれることもある。クワやテグワ・テバチは主に西日本で使われることが多く、土壌環境を反映した可能性がある。

土を削る道具には草削りやジョレン、移植ゴテ、カベキリなどがある。草削りは1980年代以降に土を削る道具として使われるようになり、地域によって多様性が高い。北海道・東北や関東ではジョレンや移植ゴテもよく使う。また、壁を削る際に関東ではカベキリや

鎌も使う。

土をすくう道具には、オタマや移植ゴテがある。移植ゴテは、土をかきだしやすくするために先端を曲げて変形させることもあり、全国的にマガリと呼ばれている。

土を集める道具にはジョレンがある。全国的にジョレンと呼ばれるが、九州ではカキイタ、四国ではハグチとも呼ばれる。土を運ぶ道具にはミや一輪車がある。1960年代頃にもっこから一輪車、トロッコからベルトコンベアーに代わった。ミは東西で呼称が異なり、東日本でミ、西日本でテミと呼ぶことが多い。九州ではショウケと呼ぶこともある。一輪車は、近畿と中国・四国でイチリンやイチリンシャ、その他の地域ではネコやネコグルマと呼ぶことが多い。一輪車をネコやネコグルマと呼ぶ地域は、排土の山をネコヤマと呼ぶことが多い。

2　今後の展望

発掘調査道具の地域性を検討した結果、使用する道具は各地域の土壌環境が反映されている可能性を指摘した。実感しにくくなっている現在においても、私たちの道具や生活は身近な自然環境の影響を受けている。過去の人間活動を考える上で、地質や地形、気候、動植物相といった様々な自然環境を考慮した議論の重要性を改めて述べておきたい。

一方で、すべてを環境要因で説明できないという結果に注目したい。軽くてやわらかい黒ボク土が主に分布する東日本では、クワを使うことが少なく、ジョレンや移植ゴテで土を削ることが多い。ただし、東日本全域に黒ボク土が分布している訳ではないため、土壌環境から見ると必ずしも適していない道具で調査をしている可能性がある。出身大学における考古学教育の伝統、遺物・遺構の調査方針や検出方法、地元のホームセンターなどの品揃えといった様々な要因が想定されるが、ここでは発掘調査道具の選択肢を広げる提案につなげたい。

例えば、これまで台地の遺跡を発掘してきた自治体が大規模事業によって低地の遺跡を発掘することになった場合、その自治体は台地に適応した調査道具で低地の遺跡を調査することになる。低湿地遺跡のような重くて粘性の高い堆積土壌の発掘調査では、穴のあいたスコップが使われ、新潟県ではホソと呼ばれる細いスコップもよく使われている。また、金属製の道具では粘性の強い土が貼りつきやすいため、貼りつきにくい竹製の道具が重宝され、竹の先端を削って手スコのように加工するや大きな竹ベラで掘るというアンケート回答もみられた。こうした低地に向いた調査道具を導入すれば、より効率的な発掘調査が期待できる。本稿で提示した全国的な傾向を踏まえて、より地域的な議論へつながることを期待したい。

今回の調査結果は地方公共団体等の文化財担当者を対象としたものであるため、民間の

発掘調査組織を対象とした調査から検証する必要があろう。また、考古学や埋蔵文化財行政を身近に感じてもらう試みとして、発掘調査道具に焦点をあてた展示も有効になるかもしれない[7]。本文中に提示したグラフの都道府県ごとの集計結果を巻末の表４～７に掲載している。本稿が日常的に使用している発掘調査道具を見直す機会になれば幸いである。

謝　辞

発掘調査道具のアンケート調査にご回答いただいた多くの皆様へ深く感謝申し上げます。

各地の発掘調査に参加する中で、調査道具の地域性を実感してきた。そして、『発掘調査のてびき』作成検討委員会の作業部会で東日本と西日本の発掘調査の違いから生じる様々な議論に触れ、「発掘調査文化」とも言えそうな地域性を具体的に知ることが日々の業務にも有効になると考えた。

全国各地から数多くの文化財担当者が研修を受講するために研究所を訪れていることから、当時の企画調整部長である肥塚隆保氏や埋蔵文化財センター長である松井章氏にアンケート調査の意義や目的を説明し、少なくとも10年間は継続的に調査を実施したいとお願いして、了解をいただいた。実施に当たっては、研究支援推進部総務課の研修担当に長年ご協力していただいた。企画調整部の高田祐一氏からは、担当される報告書データベースに関する説明会でのアンケート配布をご提案いただいた。

また、本稿の執筆に当たり、以下の方々からご教示を得た。記して感謝の意を表します。

上中央子、垣中健志、金田明大、坂本匠、瀬口眞司、趙哲済、辻川哲朗、寺前直人、中川寧、橋本牧枝、福井淳一、西川修一、松崎哲也、宮垣正樹、山田晃弘（敬称略、五十音順）

註

1　1920年代以前の状況としては、1877（明治10）年の大森貝塚の発掘調査で「人夫達は耨で、我々は移植鏝で掘り始めた」や「彼等はみな耨やショベルを持ち、また我々が見つけた物を何でも持ち帰る目的で、非常に大きな四角い籠を持って行った」とあり、耨（hoes）やショベル（shovels）、移植鏝（trowels）が使われていたことがうかがえる（Morse1917、石川訳1929）。また、1909（明治42）～1915（大正４）年に古蹟調査事業として実施された発掘調査では、発掘調査の写真から、スコップ、箕、ツルハシ、ヒネリ鎌、鍬が使用されたことが指摘されている（内田2003）。

2　アンケートは無記名で実施したため、重複回答は都道府県、出身大学、考古学専攻の有無、年齢、筆跡から判断した。

3　アンケート調査を実施した2009（平成21）～2021（令和３）年度における埋蔵文化財専門職員の平均数5,759名から算出。専門職員数は『埋蔵文化財関係統計資料』（文化庁2022）を参考とした。

4　『発掘調査のてびき』は排土と表記しており（文化庁・奈文研編2010）、アンケートは「廃土」ではなく「排土」とすべきであった。これ以降、本稿では訂正して排土の表記を使用する。

5　アンケートの回答ではないが、東日本大震災の復旧・復興事業に伴う発掘調査において、現地では使われていなかった両刃の草削りが派遣職員によって導入されたという話をうかがった。

6　“シャベル【shovel】”、デジタル大辞泉、JapanKnowledge、https://japanknowledge.com、（参照2022-05-31）

7　飛鳥資料館で開催した特別展『骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事―』では、研究員の仕事内容へ興味を持つきっかけとして、調査や分析に使用する道具を図録や展示で紹介した（小沼ほか2019・2020）。調査研究の過程を丁寧に見せることを目的とした展示であったが、想定以上に私たちが日常的に使用している道具への関心が高く、結果として、脆弱な出土資料のオーバーユースを避けながら保存と活用の両立につながった。

参考文献

相原康二　2010『初めての発掘調査―さあ、考古学へ挑戦だ―』　六一書房

内田好昭　2003「朝鮮古蹟調査と撮影された発掘用具」『考古学史研究』10　pp.31-36

園芸文化協会　2020『園芸道具の選び方・使い方「コツ」の科学』　講談社

岡崎百合子・北川万寿夫・二瓶秀幸　1998『ほるダス―発掘調査マニュアル―』　共和開発株式会社

小原洋・大倉利明・髙田裕介・神山和則・前島勇治・浜崎忠雄　2011「包括的土壌分類第１次試案」『農業環境技術研究所報告』29　pp.１-73

小原洋・髙田裕介・神山和則・大倉利明・前島勇治・若林正吉・神田隆志　2016「包括的土壌分類第１次試案に基づいた１/20万日本土壌図」『農業環境技術研究所報告』37　pp.133-148

神永曉　2015『悩ましい国語辞典―辞書編集者だけが知っていることばの深層―』　時事通信社

甲野勇　1947『図解先史考古学入門』　山岡出版

後藤守一　1927『日本考古学』　四海書房

小沼美結・山崎健・西田紀子　2019『骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事』飛鳥資料館図録第71冊　奈良文化財研究所飛鳥資料館

小沼美結・西田紀子・山崎健　2020『骨ものがたり―飛鳥資料館学芸室のお仕事』飛鳥資料館研究図録第23冊　奈良文化財研究所飛鳥資料館

近藤義郎・楢崎彰一・西川宏・横山浩一・藤沢長治　1958『考古学の基本技術』　日本科学社

斎藤忠　1950『考古学の研究法』　吉川弘文館

酒詰仲男　1951『先史発掘入門』　古今書院

真田信治　1981「地域とのかかわり―交通と通信の外来語―」『英米外来語の世界』　南雲堂　pp.87-126

柴田貢　2010「園芸道具の歴史と今後の販売」『GardenCenter』2010.９月号　グリーン情報　pp.14-17

尚学図書編　1989『日本語方言大辞典』　小学館

新村出　2018『広辞苑』第７版　岩波書店

鈴木公雄　1988『考古学入門』　東京大学出版会

染谷裕子　1995「シャベルとスコップ」『調布日本文化』５　pp.35-52

染谷裕子　1996「類義語の混乱―「シャベル」と「スコップ」の昭和史―」『調布日本文化』６　pp.17-37

中村浩　1997『考古学で何がわかるか―私の考古学概論―』　芙蓉書房出版

服部敬史　1985『発掘と整理の知識』考古学シリーズ２　東京美術
濱田耕作　1922『通論考古学』　大鐙閣
平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編　1993・1994『現代日本語方言大辞典』　明治書院
藤田亮策・清水潤三・桜井清彦・中川成夫・小出義治・大塚初重　1958『考古学の調査法』　古今書院
文化庁文化財部　1966『埋蔵文化財発掘調査の手びき』　国土地理協会
文化庁文化財部記念物課・奈良文化財研究所編　2010『発掘調査のてびき―集落遺跡発掘編―』　文化庁文化財部記念物課
文化庁文化財部第二課　2022『埋蔵文化財関係統計資料―令和３年度―』
松村明編　2006『大辞林』第３版　三省堂
松村明監修　2012『大辞泉』第２版　小学館
Morse, E, S.　1917 Japan day by day. Houghton Mifflin（石川欣一訳　1929『日本その日その日』　科学知識普及会）

挿図出典

図１：文化庁文化財部1966、文化庁文化財部記念物課・奈良文化財研究所編2010より作成
図２：アンケート用紙より作成
図３～15、17～19：筆者作成
図16：小原ほか2016より作成

表 4　使用する発掘調査道具（北海道～愛知県）

		北海道・東北							関東							中部								
		北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知
土を掘る	移植ゴテ	24	24	42	7	2	7	16	13	9	25	21	18	17	22	13	8	32	4	7	20	3	16	18
	草削り	3	2	2	1	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	2	1	1	0	1	5	1	0	4
	クワ	4	3	5	1	0	1	9	0	1	3	1	0	1	0	1	5	9	8	3	6	4	13	7
	ジョレン	2	8	3	0	2	1	1	2	2	4	4	7	1	0	5	3	1	2	1	7	3	2	0
	スコップ	39	34	38	16	12	30	42	25	13	40	50	45	47	70	49	21	59	21	13	47	22	34	40
	スコップ・移植ゴテ	13	18	24	14	11	2	17	8	6	7	5	8	6	8	10	6	11	9	6	15	9	10	9
	その他	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	1	2	0	2	0	3	1	1	0
土を削る	移植ゴテ	15	21	22	1	7	2	10	9	7	14	12	15	19	15	3	3	6	7	2	8	6	5	3
	草削り	37	28	50	37	7	19	42	10	6	22	27	11	24	26	29	20	65	24	13	44	23	24	40
	ジョレン	24	26	24	14	8	12	20	21	4	20	34	29	16	32	23	15	19	2	7	22	3	10	8
	その他	5	4	3	2	0	0	3	1	6	2	2	4	4	3	4	1	8	2	5	8	3	4	1
土坑を掘る	移植ゴテ	31	35	36	32	12	18	33	18	8	26	37	35	31	46	22	20	34	18	14	40	12	14	21
	オタマ	32	51	59	1	20	9	20	18	15	33	39	30	31	39	20	16	44	14	9	57	21	25	27
	草削り	1	5	3	1	0	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	6	4	1	4
	クワ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	スコップ	3	0	1	0	0	0	3	0	0	4	0	1	2	3	3	2	0	2	0	2	1	1	3
	スコップ・移植ゴテ	0	1	10	4	0	0	3	0	1	3	0	2	0	1	1	2	3	1	1	4	1	3	1
	その他	2	0	1	2	2	0	2	4	1	4	2	6	1	0	6	3	1	2	0	6	1	3	3
壁を削る	移植ゴテ	16	16	21	1	5	0	4	3	2	5	9	5	8	11	2	3	15	0	1	3	3	2	2
	カベキリ	0	1	1	0	1	4	2	2	3	10	6	15	14	6	8	0	2	0	2	4	0	2	2
	草削り	38	47	51	32	16	28	45	33	20	41	52	42	45	55	37	23	66	28	14	52	23	30	36
	スコップ	2	0	0	1	1	1	4	1	1	3	1	0	0	5	5	0	0	1	2	0	0	3	3
	その他	6	5	6	2	1	0	2	1	2	2	2	4	2	1	8	0	2	1	4	1	2	3	0
集める・運ぶ	一輪車	18	19	25	2	7	7	18	4	8	16	19	21	19	26	13	4	10	6	8	34	8	10	8
	ジョレン	18	30	34	11	9	6	13	10	6	20	23	22	26	26	15	13	27	10	7	27	20	21	21
	ミ	37	43	49	23	13	16	38	24	9	39	39	36	34	41	27	20	45	21	13	44	19	30	29
	その他	6	9	3	3	0	3	9	1	5	2	6	3	14	11	0	1	6	7	1	15	5	1	4

表 5　使用する発掘調査道具（三重県～沖縄県）

		近畿							中国・四国									九州・沖縄							
		三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
土を掘る	移植ゴテ	6	19	11	24	21	17	11	24	9	13	9	8	0	3	13	2	22	6	9	37	17	16	11	17
	草削り	1	2	0	2	2	3	0	1	2	0	1	0	0	0	0	2	1	1	3	6	3	0	3	6
	クワ	8	10	20	10	33	8	17	21	20	23	19	15	2	9	13	12	36	3	3	14	5	15	21	27
	ジョレン	2	1	1	2	1	1	1	4	2	1	0	0	0	0	3	0	2	0	3	4	0	1	4	0
	スコップ	34	34	37	109	59	60	32	55	40	51	9	18	0	12	36	11	40	13	15	27	18	35	23	9
	スコップ・移植ゴテ	0	9	15	26	21	28	9	14	17	3	26	14	6	5	4	4	28	7	8	25	5	3	4	26
	その他	0	1	0	1	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1
土を削る	移植ゴテ	0	4	2	9	8	1	0	2	1	0	1	2	0	1	1	1	18	3	2	27	1	2	6	2
	草削り	33	40	51	76	77	66	27	61	48	44	38	27	9	17	27	14	67	14	22	51	33	26	25	42
	ジョレン	9	8	9	31	10	16	8	11	6	7	3	4	1	4	5	5	16	3	4	19	9	9	8	6
	その他	1	4	5	1	2	4	4	2	4	2	3	2	0	0	11	1	9	5	0	5	3	2	2	2
土坑を掘る	移植ゴテ	15	27	33	69	44	53	22	36	29	28	17	16	2	11	15	9	66	9	10	38	21	20	19	13
	オタマ	18	14	19	42	48	22	24	37	39	21	27	23	1	16	28	14	37	8	11	54	14	27	23	50
	草削り	3	8	12	22	13	6	1	4	7	7	2	1	1	2	7	0	1	0	1	2	1	0	3	8
	クワ	2	4	6	9	14	2	5	1	2	4	1	2	0	6	0	2	16	2	1	0	0	1	0	1
	スコップ	1	6	2	10	4	9	3	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	0	3	0	2	0	3	0
	スコップ・移植ゴテ	2	4	6	12	4	11	2	1	1	3	2	2	0	4	1	2	2	2	1	2	1	1	0	4
	その他	3	2	0	6	4	3	1	0	2	6	0	2	2	1	2	2	2	1	0	3	0	4	0	6
壁を削る	移植ゴテ	1	5	3	1	4	4	0	1	1	0	0	1	0	1	1	2	7	1	1	24	2	2	3	1
	カベキリ	1	0	0	1	3	0	0	3	4	0	3	0	0	5	2	1	0	0	0	1	3	3	6	5
	草削り	22	36	40	86	65	63	27	47	47	36	29	23	8	11	30	14	65	15	22	52	27	29	24	38
	スコップ	3	1	4	2	2	6	3	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	5	0	0	1	0
	その他	0	3	3	5	3	5	0	0	2	3	1	0	1	0	7	0	3	1	1	4	0	1	2	3
集める・運ぶ	一輪車	5	15	11	15	16	10	6	8	17	14	7	7	2	0	8	7	13	1	6	19	8	12	6	9
	ジョレン	11	20	27	58	46	43	22	31	31	20	25	17	1	11	18	9	33	10	12	30	7	21	19	18
	ミ	20	30	42	75	48	58	23	43	35	27	29	21	5	12	24	15	61	17	21	59	26	23	21	34
	その他	5	5	3	4	9	1	4	2	2	9	0	3	1	4	4	1	29	0	3	10	2	2	0	6

表 6　発掘調査道具などの呼称（北海道～愛知県）

		北海道・東北							関東							中部								
		北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京都	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知
スコップ	エンピ	15	14	11	8	4	4	20	10	5	24	33	28	33	25	13	1	6	1	6	22	5	9	6
	カクスコ	17	12	13	5	4	13	18	12	4	20	16	16	17	37	14	5	19	9	5	17	13	18	22
	ケンサキ	6	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0
	ケンスコ	0	8	3	1	4	10	11	4	2	4	5	5	2	23	13	12	28	9	4	4	5	11	12
	ダイスコ	2	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	4	1	4	0	1	1	0	2
	ホソ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0
	マルスコ	1	0	2	1	0	1	2	0	1	2	1	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	2
	その他	6	7	10	4	5	4	2	2	1	7	7	4	3	1	7	2	7	1	2	10	1	2	3
移植ゴテ	イショク	68	77	85	20	13	13	42	16	6	46	62	49	57	65	20	8	22	7	13	38	10	18	6
	イショクゴテ	16	9	9	3	4	3	3	5	3	13	12	11	13	17	13	14	53	7	4	21	4	5	6
	イショクベラ	1	4	27	4	8	4	17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	コテ	0	0	0	0	0	2	2	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	テスコ	2	3	0	2	0	0	0	6	16	4	0	4	1	1	2	10	6	13	7	6	11	14	33
	マガリ	3	12	4	12	0	3	4	6	1	8	7	21	14	12	2	0	2	1	2	12	0	1	1
	その他	3	3	3	0	1	3	2	2	1	2	2	0	2	4	3	3	8	3	3	6	0	1	2
草削り	オオガリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	カッチャ	2	0	10	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カッチャキ	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カッツァ	1	1	3	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カマ	6	6	7	5	3	6	13	13	11	14	26	22	12	8	9	0	1	0	3	6	4	2	0
	ガリ	16	7	9	2	1	9	7	6	1	5	8	4	11	17	2	24	21	24	4	5	17	30	31
	キツネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0
	クサケズリ	3	1	0	7	0	4	23	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ケズリ	3	0	0	10	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	サンカク	0	10	0	3	0	4	2	3	2	3	11	0	2	4	1	0	4	0	7	0	1	0	1
	サンカクホー	4	13	4	1	3	6	12	8	3	17	8	4	7	18	3	2	23	2	2	4	3	4	12
	テガリ	1	0	0	0	1	1	0	4	0	1	1	1	2	4	0	7	0	1	0	0	5	4	17
	ネジリ	11	9	2	0	2	2	8	3	0	3	6	3	4	4	5	2	6	4	0	1	1	3	6
	ネジリガマ	10	27	9	1	12	1	6	4	3	10	4	2	4	13	10	9	18	8	3	4	11	1	0
	ハンゲツ	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	1	0	2
	マガリガマ	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	21	3	0	1	0	0	0
	リョウバ	5	8	33	0	1	7	0	0	0	4	4	3	19	7	17	1	11	6	7	75	0	13	3
	リョウバガマ	0	0	16	0	1	4	2	0	3	2	2	0	2	1	8	0	7	0	2	12	7	0	3
	その他	7	7	25	13	0	10	24	2	5	9	12	17	7	9	15	0	24	7	3	4	6	6	9
ジョレン	カキイタ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジョレン	46	63	62	21	19	18	30	33	11	44	56	61	43	59	38	31	47	14	15	56	27	34	28
	ハゲチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	2	1	0	6	0	1	7	1	1	1	6	1	0	0	11	0	0	0	0	0	0	2	1
ミ	ショウケ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	テミ	3	2	4	2	6	2	8	4	0	6	4	4	4	7	4	3	15	2	5	5	3	6	11
	ミ	31	37	42	21	8	15	30	20	9	31	34	31	29	35	25	16	32	19	10	39	14	17	16
	その他	4	4	4	0	0	0	0	1	0	3	2	2	1	0	0	1	0	0	0	1	2	7	5
一輪車	イチリン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	イチリンシャ	1	1	3	0	3	2	7	2	1	3	4	1	0	5	7	1	3	4	2	16	1	4	4
	ネコ	17	12	19	2	4	5	11	2	7	12	15	20	19	19	6	2	6	2	6	18	7	6	3
	ネコグルマ	0	7	3	0	1	0	0	0	0	1	0	1	2	2	0	1	1	0	1	0	0	1	0
	その他	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
排土の山	ザンド	0	1	1	0	0	5	2	0	0	3	1	2	5	10	5	1	0	1	0	1	1	2	0
	ドヤマ	1	2	12	4	2	0	4	8	2	13	7	2	4	4	1	0	1	0	0	9	0	3	1
	ネコヤマ	12	10	6	1	3	0	8	0	5	5	18	14	15	15	2	1	1	0	1	7	3	4	1
	ハイド	20	15	22	10	12	6	21	8	4	13	10	15	10	13	15	11	31	15	11	34	14	21	22
	ハイドヤマ	6	13	3	3	2	3	7	1	0	5	8	6	5	11	7	7	10	2	1	7	2	2	6
	その他	7	4	29	6	1	5	6	17	3	8	18	5	10	18	4	1	2	4	2	7	1	2	2

表 7　発掘調査道具などの呼称（三重県～沖縄県）

		近畿							中国・四国									九州・沖縄							
		三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
スコップ	エンピ	2	0	2	2	2	2	0	9	1	1	0	2	0	2	2	1	1	2	3	3	1	3	2	1
	カクスコ	19	16	16	55	24	29	18	24	18	27	5	6	0	4	14	8	18	7	6	18	8	17	15	5
	ケンサキ	1	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	ケンスコ	13	11	17	47	18	21	9	14	13	18	1	9	0	1	16	1	13	4	7	8	4	14	7	0
	ダイスコ	1	10	5	5	11	13	10	5	1	1	3	0	0	4	4	0	4	0	2	5	2	2	0	0
	ホソ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マルスコ	0	2	2	4	4	0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	1	1
	その他	2	3	2	11	15	11	4	9	13	14	0	2	0	2	6	1	9	2	3	2	7	2	2	2
移植ゴテ	イショク	2	2	7	1	9	2	1	16	8	3	2	1	0	4	5	6	39	8	8	50	17	13	11	14
	イショクゴテ	5	6	4	4	6	1	0	12	12	7	10	9	1	0	3	5	19	6	8	40	8	10	25	17
	イショクベラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	コテ	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	テスコ	13	40	32	77	58	53	26	43	18	21	12	16	1	9	25	3	14	1	6	26	11	13	1	1
	マガリ	2	10	7	18	4	16	7	1	0	8	1	1	0	1	0	1	55	3	4	16	9	3	1	1
	その他	0	6	1	6	6	5	0	1	3	7	4	0	0	3	1	0	7	2	3	3	1	2	1	3
草削り	オオガリ	3	5	11	5	12	3	0	18	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カッチャ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カッチャキ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カッツァ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カマ	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	2	0	1	0	0
	ガリ	18	40	51	104	79	90	20	56	73	37	31	29	10	18	28	1	21	5	8	45	41	8	5	4
	キツネ	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	3	1	0	0
	クサケズリ	1	0	1	0	3	0	1	1	9	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ケズリ	0	0	0	0	2	0	0	4	0	30	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	サンカク	7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	4	2	0	0	0	0	37	0	0	2	2	0	0	1
	サンカクホー	1	5	5	0	10	4	7	0	6	2	12	4	3	0	7	0	10	0	3	8	3	1	2	5
	テガリ	15	29	29	75	39	50	17	27	2	3	5	4	0	4	2	2	2	0	0	4	0	0	3	3
	ネジリ	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	3	1	0	0	25	33	15	12	22	10	29	15	33
	ネジリガマ	2	3	0	0	0	0	1	1	1	4	2	0	1	0	3	1	21	9	22	12	4	11	25	43
	ハンゲツ	1	4	4	2	7	4	0	1	4	9	0	5	1	2	9	0	1	0	0	1	0	0	0	0
	マガリガマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リョウバ	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	2	6	0	11
	リョウバガマ	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	6	0	0	7	0	0	1	0
	その他	9	4	8	9	13	1	13	18	12	9	15	2	2	5	15	0	17	1	5	9	7	4	10	6
ジョレン	カキイタ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	28	10	7	5	12	2	0	0
	ジョレン	21	30	36	91	56	60	32	45	39	28	28	21	2	10	15	15	22	3	12	48	4	28	31	24
	ハゲチ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	1	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4	1	7	0	0	1	1	1	0	0
ミ	ショウケ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	2	0	11	3	1	0	0
	テミ	9	7	23	55	39	39	20	39	34	26	28	22	4	11	20	14	17	3	9	38	19	22	19	33
	ミ	11	23	18	21	8	21	2	4	1	2	1	1	1	1	2	1	4	2	3	7	0	0	1	0
	その他	0	0	2	0	2	0	1	4	1	0	0	0	0	0	3	0	15	10	11	5	5	0	1	1
一輪車	イチリン	1	2	0	2	4	2	0	0	0	0	0	1	0	0	2	4	0	0	0	1	0	0	0	0
	イチリンシャ	2	11	8	4	6	5	3	1	1	2	3	3	2	0	1	2	11	1	3	10	1	4	3	7
	ネコ	1	1	3	7	7	1	3	4	14	8	2	3	0	0	5	1	2	0	3	8	7	9	3	1
	ネコグルマ	0	1	0	1	1	2	1	3	3	4	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1	1
	その他	1	0	1	2	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
排土の山	ザンド	0	1	4	22	15	0	2	2	6	0	1	2	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	7
	ドヤマ	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0
	ネコヤマ	0	0	0	2	0	0	0	3	1	0	1	0	1	0	2	2	0	1	0	2	0	0	1	1
	ハイド	16	18	28	58	33	46	18	32	29	20	22	14	4	10	18	11	32	9	13	38	13	15	12	23
	ハイドヤマ	0	1	4	0	3	1	2	4	2	3	1	1	1	1	4	0	2	1	2	4	1	6	5	1
	その他	4	13	11	15	8	14	4	1	12	7	5	8	1	1	1	0	21	3	3	10	7	6	9	14